

甲 第 号

飯田 昭夫 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲第	号	氏名	飯田 昭夫
論文審査担当者	委員長		教授	西 真弓
	委員		准教授	面川 庄平
	委員		教授	田中 康仁
	(指導教員)			

主論文

Effect of Wrist Position on Distal Radioulnar Joint Stability:
A Biomechanical Study

(和訳)

手関節肢位が遠位橈尺関節の安定性に及ぼす影響

Akio Iida, Shohei Omokawa, Hisao Moritomo, Shinsuke Omori,
Toshiyuki Kataoka, Mitsuhiro Aoki, Takuro Wada,
Mineko Fujimiya, Yasuhito Tanaka

飯田昭夫 面川庄平 森友寿夫 大森信介 片岡利行 青木光広
和田卓郎 藤宮峯子 田中康仁

Journal of Orthopaedic Research
第 32 卷 1247 頁～1251 頁
2015 年 10 月発行

論文審査の要旨

遠位橈尺関節 (DRUJ) は元来、骨性に不安定であり、三角繊維軟骨複合体 (TFCC) が重要な安定化要素である。TFCC には尺骨と手根骨を結ぶ尺骨手根靭帯 (UCL)、橈尺骨を結ぶ遠位橈尺靭帯 (RUL)、手関節尺背側に位置する尺骨手根伸筋腱床 (ECU floor) などが含まれる。TFCC 損傷の形態により DRUJ の不安定性の様式も異なると考えられ、現在まで TFCC 損傷の部位診断や DRUJ 不安定性の評価の際、前腕回内外に変化させての評価が一般的に用いられてきた。

本研究によって、正常手関節において DRUJ は手関節伸展位で安定し、UCL の緊張が伸展時の安定性に関与していることが示され、また、RUL 尺側部断裂において ECU floor が保たれば手関節橈屈位で DRUJ は安定し、ECU floor がその安定性に寄与していることが示された。臨床において、手関節中間位に加えて伸展、橈屈位での不安定性評価を行うことで、TFCC 損傷部位を推測できる可能性が示唆された。本研究は TFCC 損傷部位診断の一助となり、その後の治療の指標となりうる有用な研究である。

参 考 論 文

1. 円回内筋尺骨頭に関する解剖学的検討

飯田 昭夫、面川 庄平、吉良 務、仲西 康顕、中野 健一、

田中 康仁

日本肘関節学会雑誌 21 巻 2 号 : 324-325、2014

2. Biomechanical study of the extensor carpi ulnaris as a dynamic wrist stabilizer.

Akio Iida, Shohei Omokawa, Hisao Moritomo, Mitsuhiro Aoki,

Takuro Wada, Toshiyuki Kataoka, Yasuhito Tanaka

J Hand Surg (Am). 37: 2456-2461, 2012

3. Distal radioulnar joint stress radiography for detecting radioulnar ligament injury.

Akio Iida, Shohei Omokawa, Manabu Akahane, Kenji Kawamura,

Katsutosi Takayama, Yasuhito Tanaka

J Hand Surg (Am). 37:968-974, 2012

4. Ulnar variance: its relationship to ulnar foveal morphology and forearm kinematics.

Toshiyuki Kataoka, Hisao Moritomo, Shohei Omokawa, Akio Iida,

Tsuyoshi Murase, Kazuomi Sugamoto.

J Hand Surg (Am). 37: 729-735, 2012

5. Reliability and clinical importance of teardrop angle measurement in intra-articular distal radius fracture.

Ryotaro Fujitani, Shohei Omokawa, Shigeru Santo, Akio Iida,

Yasuhito Tanaka

J Hand Surg (Am). 37:454-459, 2012

6. Decompression effect of partial capitate shortening for Kienbock's disease: a biomechanical study.

Toshiyuki Kataoka, Hisao Moritomo, Shohei Omokawa, Akio Iida,

Takuro Wada, Mitsuhiro Aoki

Hand Surg. 17: 299-305, 2012

7. 手関節の装具療法

飯田昭夫、面川庄平

運動・物理療法 23 巻 3 号 : 238-243、2012

8. 遊離静脈皮弁を用いて指の血行再建と軟部組織再建を同時に行った 1 例

飯田昭夫、藤谷良太郎、奥田真義、山藤滋

整形外科 62 巻 11 号 : 1180-1183, 2011

9. Predictors of Distal Radioulnar Joint Instability in Distal Radius Fractures.

Ryotaro Fujitani, Shohei Omokawa, Manabu Akahane, Akio Iida,

Hiroshi Ono, Yasuhito Tanaka

J Hand Surg (Am) 36 : 1919-25. 2011

10. 閉鎖性大腿骨骨折に大腿動脈損傷を合併した 2 例

飯田昭夫、面川庄平、藤谷良太郎、奥田真義、稲田有史、川西弘一

整形外科 60 卷 11 号: 1176-1179, 2009

1 1. 手指の指節間関節陥没型骨折に対する観血的整復固定術

飯田昭夫、面川庄平、藤谷良太郎、奥田真義、堀内隆史

骨折 31 卷 3 号: 469-472, 2009

1 2. 手の内軟骨腫に対するリン酸カルシウム骨セメントの使用経験

飯田昭夫、矢島弘嗣、小島康宣、村田景一、高倉義典

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 45 卷 3 号: 403-404, 2002

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに整形外科学の進歩に
寄与するところが大きいと認める。

平成 27 年 5 月 12 日

学位審査委員長

分子生体構造科学

教 授 西 真弓

学位審査委員

運動器再建医学

准教授 面川 庄平

学位審査委員（指導教員）

運動器再建医学

教 授 田中 康仁